

子どものてんかん

てんかんは乳幼児期から学童期、思春期にかけて発症することが多い病気です。その理由のひとつとして、子どもは脳が未熟なので、脳内の電気回路に不具合がおきやすく、てんかん発作を起こしやすいからだと考えられています。



小児期のてんかんの中には、ある一定の年齢になって脳が成熟すると、脳の異常な活動は制御されるようになり、自然に発作も脳波異常もよくなっていくてんかんがあります。成長とともに軽快していくので、発作頻度が少なければ無治療で経過をみることもあります。このようなてんかんは小児期特有にみられる代表的なてんかんの一つです。

一方、同じ小児期発症のてんかんであっても薬物治療がほとんど効かず、発作も脳波もどんどん悪化し、発達が止まってしまうたり、あるいは出来ていたことが出来なくなってしまうたりする場合があります。これは頻回のもてんかん発作や高度の脳波異常が持続することで脳の機能が徐々に低下していく、非常に困ったてんかんです。生まれつき持っている脳構造の異常や遺伝子の問題であったり、あるいは生まれてくるときに低酸素や脳出血などで脳に受けたダメージの後遺症であったりなど、お子さんごとに原因となる病気を持っている場合が多いです。通常の薬物治療への反応が乏しいので、免疫療法や食事療法、てんかん外科治療など特殊な治療を行う場合もあります。

子どものてんかん発作

小さいお子さんでは大人と違って「発作」なのかどうかを見極めるのが難しい場合があります。たとえば新生児や乳児ではピクツとする一瞬の動きなどが発作のことがあります。これらは普通の赤ちゃんの反射(モロー反射など)や寝入りにみられるぴくつきなどの正常の動作ととてもよく似ており、医師であっても動きだけで発作かどうかを判断することが難しいです。また、一般に「けいれん」として思い浮かべるようなガクガクしたりする症状の他にも、ほんの数秒動きが止まってボーッとするだけ、無呼吸だけ、急に場にそぐわない行動をするだけなど、まさか発作とは想像もできないような症状のこともあります。

もし本当にてんかん発作であれば、毎回似たようなパターンの症状が、だんだん頻度を増してみられるようになることが一般的です。気になる症状がある場合には、できれば動画をとって一度小児の専門医の先生に相談するのがよいでしょう。

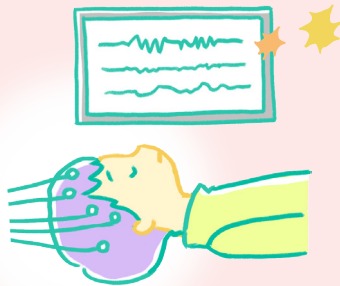


子どもでてんかんと間違われやすい病気

子どもではてんかん発作を起こすてんかんと似たような病気がいくつもあります。

たとえば、実際に全身けいれんを起こすものとしては、たとえば熱性けいれんや泣き入りひきつけ、低血糖、軽症胃腸炎関連けいれんなどが挙げられます。またけいれんではありませんが、発作と見間違うものとしてはチックや夜驚症、睡眠時ミオクローヌス、身震い発作、失神などがあります。動きだけで見分けることが難しい場合もありますが、ヒントになるのは症状が出現するタイミングや背景です。たとえば熱がある乳幼児であれば、通常は第一に熱性けいれんが疑われるでしょう。発症年齢や熱の有無、胃腸炎の有無、眠っているときなのか起きているときのかなど、「発作」以外の情報も診断には重要です。他の臓器、例えば心電図の異常はないかなど細かくチェックすることもあります。

てんかんだどうか区別が難しい場合は、MRI検査、そして脳波検査を行います。しかし、子どもの場合ここでひとつ忘れてはいけないのは、「脳波異常があれば必ずてんかん」というわけではないということです。健康な子どもの数パーセントには脳波異常があるとされています。脳波とビデオを同時に記録する「長時間ビデオ脳波記録」という検査を行い、発作症状とその時の脳波変化が一致するかどうかを確認することで、より正しい診断に至ることができます。



子どもの発達への影響



子どもたちは生まれてから日々成長し、首が座る、お座りをする、つかまり立ち、歩行といった運動面の成長がみられます。追視をして見たものを認識し、泣いたり笑ったりすることで感情を表し、そして言葉を理解したり、おしゃべりをしたりしてコミュニケーション能力も少しずつ身につけていきます。こうして脳の基本的な働きが成熟してくると、その後は学習によってどんどん一人でできることが増えていきます。このような「脳の成熟」は子どもの時にしか見られません。実はこの脳の大事な時期にてんかんがあることで、脳の働きに何らかの障害が起こる場合があります。

もちろん、病気の症状がてんかん発作だけで、他に何も症状や障害がないお子さんは多くいます。その一方で、てんかんを持つ小さなお子さんの中には身体的、あるいは知的な発達の遅れがみられる場合もあります。てんかんのある子どもの約4割は知的障害や発達障害を伴うとされます。

たび重なる発作や高度の脳波の異常が続いたりすることで、脳の働きや発達が邪魔されてしまうこともあります。このような場合は、できるだけ早くてんかん(発作)を治療することで、その子の持っている能力を最大限引き出し、お子さんの成長により成果をもたらすことが期待できます。したがって、子どものてんかんでは、発作だけではなく、その子の発達や成長の様子もいっしょに注意深く観察します。治療は発作を抑えるためだけでなく、その子の脳の発達も改善させるためにも重要です。

子どもの障害に対する支援

てんかんやその原因である基礎疾患のため身体、発達、あるいは知的に障害のある子どもたちに対する支援として療育があります。医療機関でのリハビリテーション以外にも、地域の児童発達支援センター、児童発達事業所(就学前)、そして放課後等デイサービス(就学後)などでは、通所で障害のあるお子さんに対し自立や円滑な社会生活を目指すための訓練が受けられるほか、家族や保育園などへのアドバイスも受けることができます。

さらに福祉的な支援として、身体の障害の場合は身体障害者手帳、知的障害の場合は療育手帳といった制度を利用すると、生活上の支援の他、経済的にも税控除や公共料金の優遇などを受けることができます。また、成人後の就労支援にもつなげることができます。

